



収量水準と地力で決める！ 飼料用とうもろこしの窒素施肥

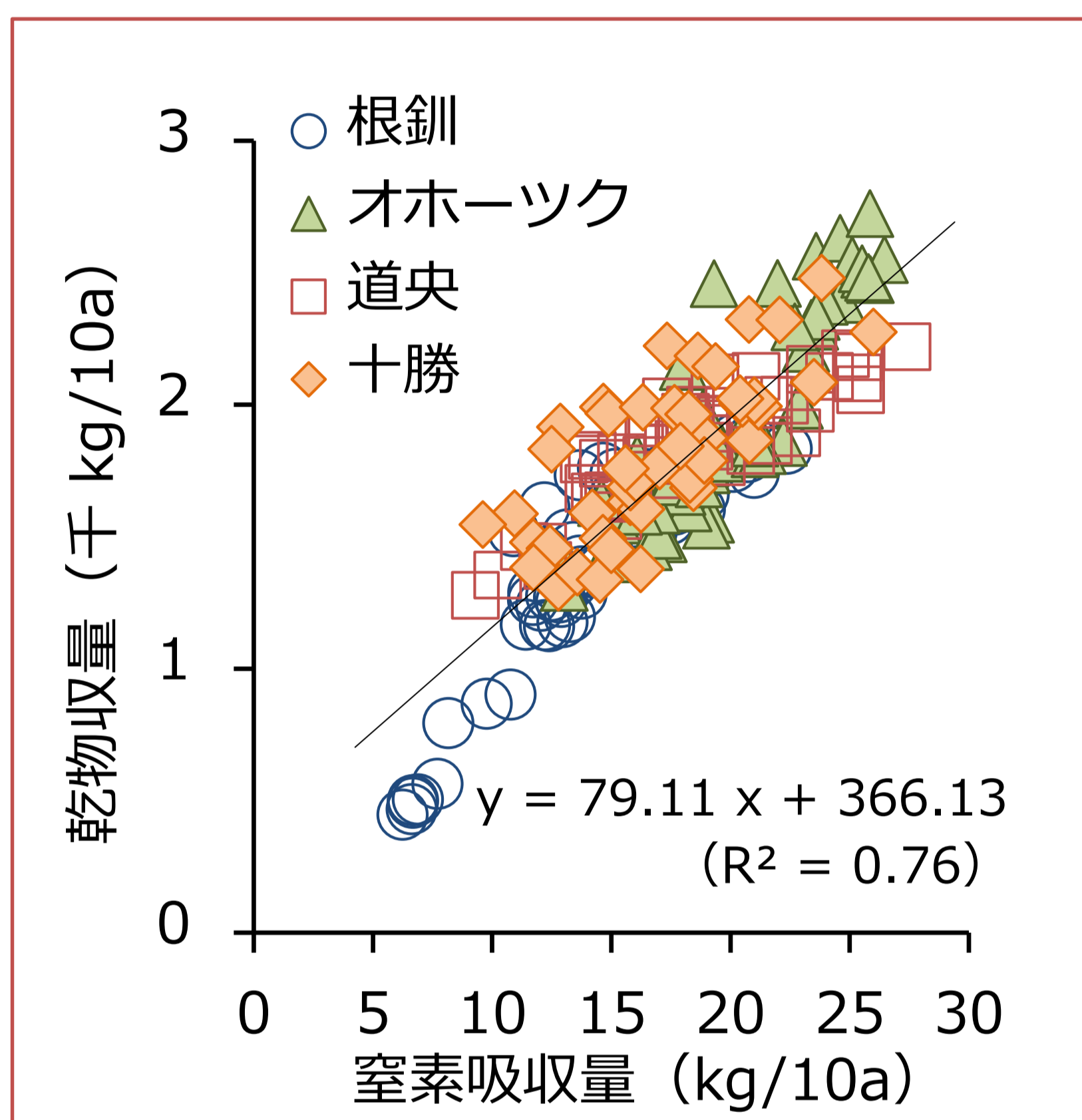
概要 Abstract

収量水準と地力窒素から、過不足のない適正な窒素施肥量を整理しました。

成果 Results

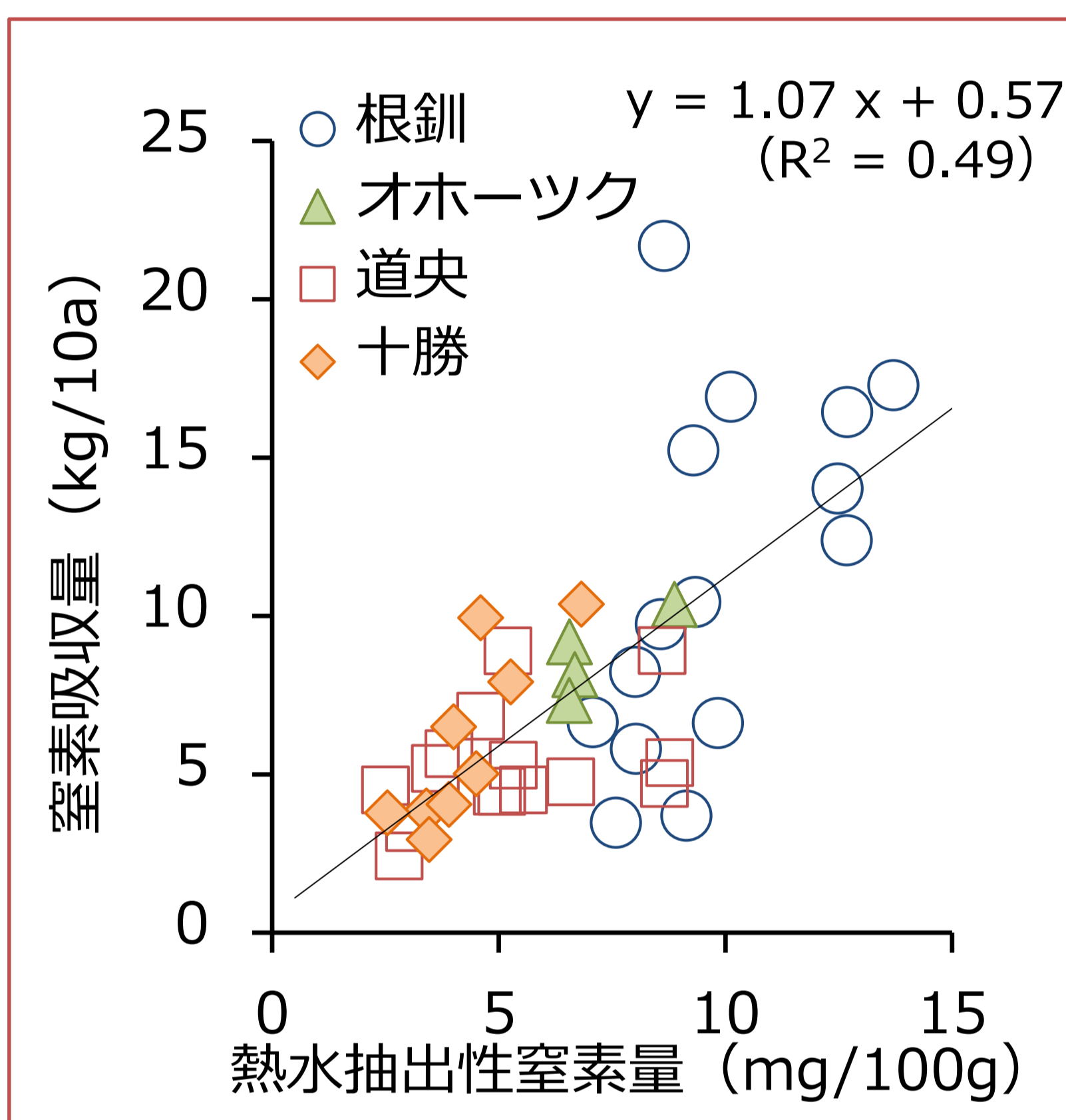
1. 目標窒素吸収量の設定

地域に関わらず、収量水準に応じて目標窒素吸収量を設定できます。



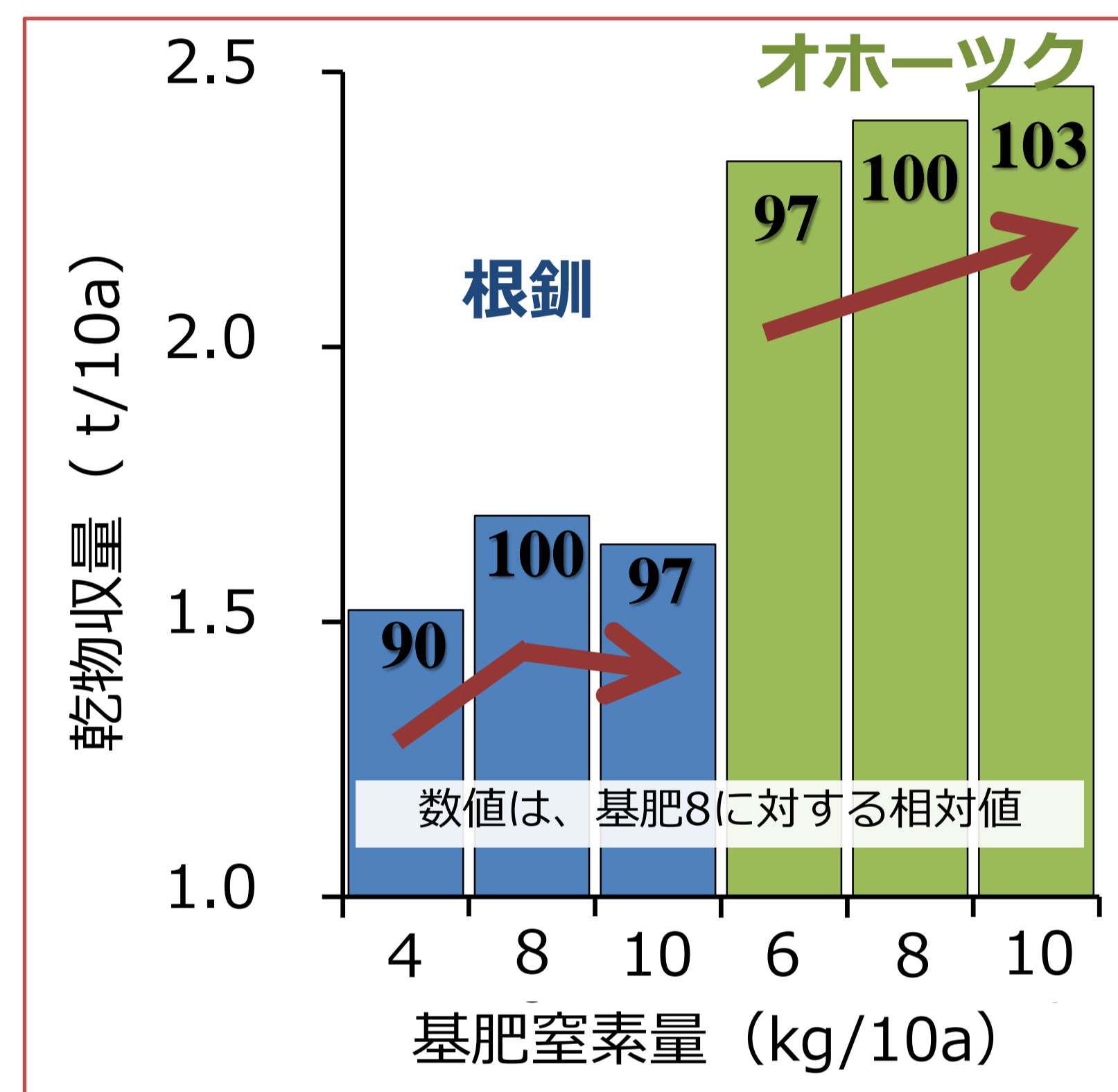
2. 地力窒素の評価

地力窒素は畑作物の土壌診断と同様に、熱水抽出性窒素により評価できます。



3. 基肥と分施の配分

基肥窒素は、総窒素施肥量の50%以上、上限※は8~10 kg/10aとします。
※濃度障害のリスク回避のため。



4. 施肥対応表の作成 (以下の表は一部抜粋)

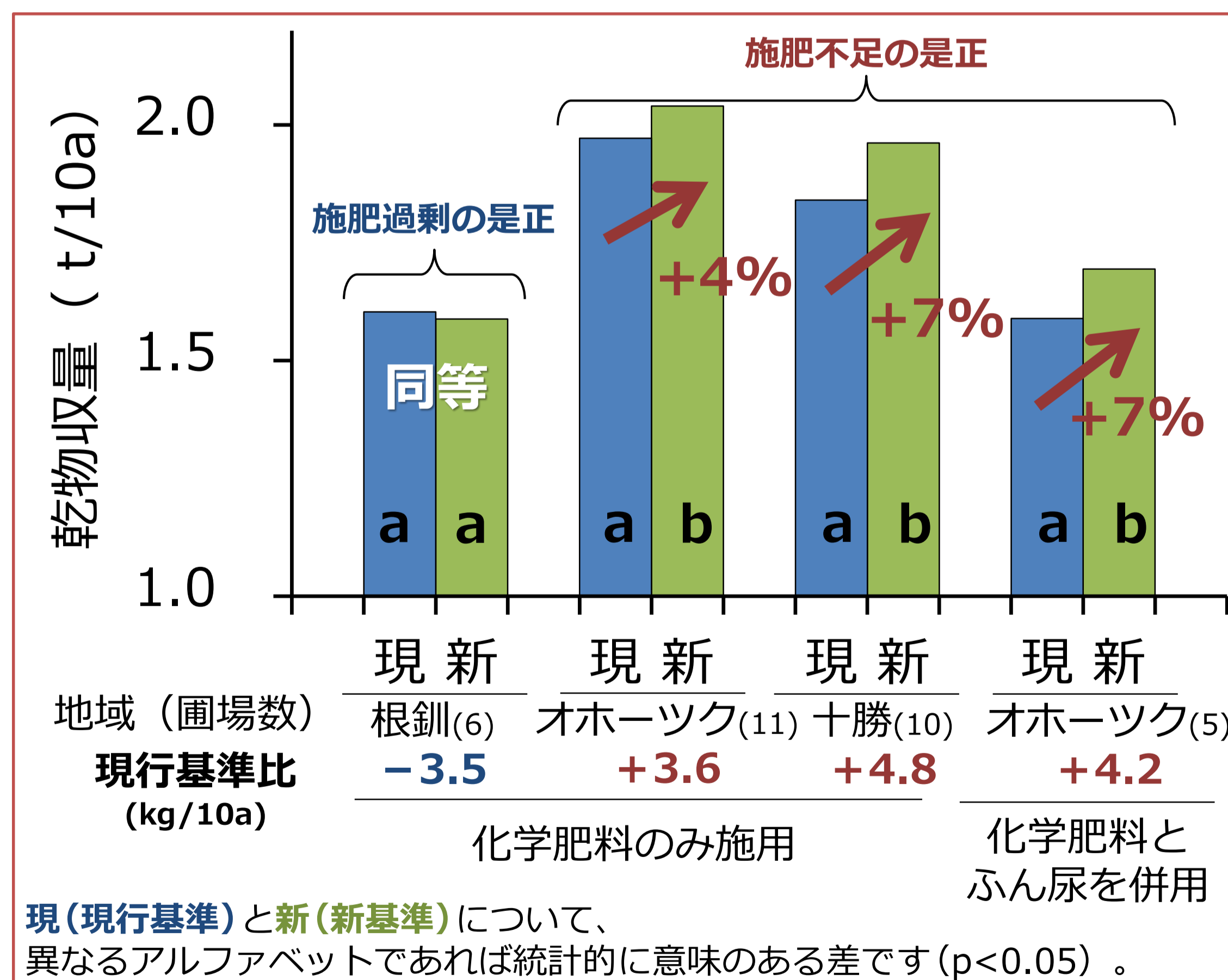
収量水準と地力窒素から決定する総窒素施肥量を整理しました。

乾物収量 (kg/10a)	目標窒素吸収量 (kg/10a)	熱水抽出性窒素量 (作土, mg/100g)				
		3 ~4	5 ~6	7~8 (施肥標準)	9 ~10	11 ~12
1300	11	17	15	12	10	8
1500	14	18	16	14	12	9
1700	17	20	18	16	13	11
1900	19	22	20	17	15	13
2100	22	22	21	19	17	15

- ・基肥は8~10 kg/10aを上限とし、残りは7葉期までに分施。
- ・堆肥またはスラリーを施用するときは、各々に由来する窒素肥効の配分(基肥-分施)を、堆肥で0-100%、スラリーで50-50%として化学肥料から減肥。

5. 新基準の妥当性

各地域における現行基準区と新基準区の収量を比較した結果、新基準の妥当性を確認できました。



普及 Dissemination

- ◇ 全道の飼料用とうもろこしに対し、適正施肥を行う上で活用できます。
- ◇ 収量水準は、生産実績や各地帯区分の基準収量※などを参考に現実的な値を設定して下さい。 ※「北海道施肥ガイド2015」を参照。

連絡先 Contact

根釧農業試験場
研究部 飼料環境グループ
0153-72-2004
kansen-agri@hro.or.jp